

市民俳歌柳壇

毎月20日で締め切り、締め切り日の翌々月の広報うつのみやで入選作品を発表します。

特選

愛でられず褒められもせず花大根

西2丁目 佐藤 順子

●特選の選評

晩春大根は菜の花と同様に、薔が立つと白または紫がかった十文字の花を開く。種を採るため畑に残しておいたもので大根としては食べられず、菜の花のような明るさも感じられないが、ひっそりとした趣がある。沢木欣一（俳人）による「大学の庭の大根花咲けり」という、大根の花に想いを寄せた作者の優しさに心打たれる一句もある。

俳句



加茂都紀女先生

入選

春散歩あるくコースをじゃんけんて

さつき3丁目 野武 俊志

紫陽花に一部始終を聞かれをり

中岡本町 迎 岱子

男体山の白銀光る冬の朝

桜5丁目 遠藤 芳孝

春風や子犬と走るおさげ髪

西刑部町 佐藤 榮子

特選

生きて来た無数の日々を使い捨て
今朝の日めくり三日の遅れ

野沢町 鈴木 孝男

●特選の選評

日めくりをめくるのを三日溜めてしまったことを、「生きて来た無数の日々を使い捨て」と言い切る作者は真面目な人だと思えます。そして、感性豊か。この歌に懂れます。忙しかったからだとか、言い訳が一切なく、歌に女々しさがない。

短歌



藤本 都先生

入選

寒暖差乾燥強風黄砂花粉
五K気象に目が回る春

清原台5丁目 北市 邦子

病得て閉院すると貼り紙の
医院に痛む手摩りつつ立つ

下田原町 五十嵐 由美子

鉛玉を口に含みて歩き出す
三つ目が溶け今日の五千歩

清原台1丁目 三木 紋子

青空へつづくネモフィラの丘ゆけば
春のかをりの風通りすぐ

緑2丁目 岩田 豊子

特選

まかせてはおけぬ話と伸ばす腰

八幡台 羽場 京子

●特選の選評

古希を過ぎてもやれる事、やらねばならぬ事が山ほどある。まだまだ子に任せずできる事は自分から率先して、人生の経験を生かし子どもと協力して難題を解決する努力をせねばなりません。子らと共に問題に立ち向かい成果を上げることが家庭円満につながるかも知れない。

川柳



佐藤隆久先生

入選

フードロス絆ボックス手を繋ぐ

立伏町 大樹 龍五郎

長居してかわりのお茶が困ってる

城東1丁目 綱川 光江

入荷せぬ薬に医者が匙を投げ

岡本町 池田 祐章

水無月は祝日無しで長い月

中岡本町 中沢 智子

俳歌柳壇の応募方法

- 1人各3句（首）以内。俳句・短歌・川柳の併記は不可。
- 対象は市内在住者で、未発表作品。年齢問わず応募できます。
- はがき表面＝住所・氏名・ふりがな・応募する壇名。
- はがき裏面＝作品（漢字にはふりがなも）・作品への思い。
- 毎月20日（消印有効）までに、〒320-8540市役所広報広聴課☎（632）2028へ。
- WEBによる応募も受け付けます。詳しくは、市HPをご覧ください。

ID 1022877



▲市HP

表

裏

住所・氏名・壇名	宇都宮市役所 広報広聴課
----------	-----------------

作品への思い	作品への思い
--------	--------